

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	日本の内政と外交		
英文授業科目名	Domestic and Foreign Affairs of Japan		
開講年度	2005年度	開講年次	3、4年次
開講学期	5、7学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	梶浦 篤		
居室	東1-511		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
授業では、日本の現在までの内政と外交の歴史を踏まえながら、これからの日本はどうあるべきなのか、また、そのためには我々はどうすれば良いのか、ということまでも考えていきたいと思っています。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
<b>【教科書等】</b>  テキスト：進藤榮一『敗戦の逆説——戦後日本はどうつくられたか』筑摩書房、1999年、(693円)。

## 電気通信大学 平成17年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

授業はゼミ形式で行います。参加者の数によって、多少の変更もあり得ますが、各自最低1回、テキストの20ページ程度をまとめて報告し、これを受けて皆で討論をしながら、理解を深めていくということになります。討論では、様々な意見（異見）が飛び交うことが望まれます。従って、留学生や社会人学生の参加も、大いに歓迎します。

概ね、テキストに沿って授業を進めますので、テキストの目次を参照してください。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

ゼミは講義とは異なり、受身ではなく、皆さん自身が積極的に発言することが求められます。評価は、(1)報告の内容、(2)発言の内容、(3)出席の状況を、中心に行います。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要条件となります。

評価基準は、一概には言えませんが、全回出席の場合、おおよそ以下のようなことが目安となります。

秀（S）：授業で扱ったテーマについて、opinion leader になれるとみなされる。

優（A）：授業で扱ったテーマについて、自分自身の意見を持っているとみなされる。

良（B）：授業で扱ったテーマについて、よく理解しているとみなされる。

可（C）：授業で扱ったテーマについて、基本的なことは理解しているとみなされる。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じますが、事前に予約を取って下さい。

### 【学生へのメッセージ】

頭の中だけではなく、心の中でも考えましょう。

机の上で考えるだけではなく、歩いて考えることもしましょう。

身の回りのことを考えるだけではなく、地球規模でも考えましょう。

### 【その他】

この授業は、人間コミュニケーション学科の専門科目「Academic Reading」と合併で行います。人間コミュニケーション学科の学生は、「Academic Reading」として履修することもできます。